

第71回「もったいない市」開催報告

2026年度

持込み 2026年4月4日(土)・5日(日) 10:00~12:00

持帰り 2026年4月12日(日) 9:30~11:00

参加人数:164名 (大人132名、子ども32名)

< 持込み量 : 87.90kg 持帰り量 : 74.65kg リユース率 : 85% >

= リユース率 : 本 84% ・ おもちゃ 99%, 婦人服 95%, 子ども服 53%, 紳士服 80% =

おもちゃや服が次の笑顔へ！
リユースの輪が広がっています！

<じゃんけん大会での勝者>



【受取時の様子】

1. 循環型リユース（ゆずる・受け取るのループ）の定着

過去のイベントや常設展示で持ち帰った子ども服やおもちゃを、サイズアウトや遊び終わったタイミングで再び寄付して下さる方が増えています。「以前“えこはま”で頂いたものを、次の方へ」という循環の輪が根付いており、一つの資源が何人もの手を渡って大切に使い継がれていることが確認できました。

2. 市民の協力体制とルールの浸透

寄付の持ち込みに際し、「サイズ別の仕分け」や「受付時の動作確認」への協力が定着しています。資源物の持参と合わせて行う方も見受けられ、環境意識の高い市民に支えられた運営ができていることが大きな成果です。

3. 寄付者の想いとマッチングの現状

子ども服は寄付者にとって思い入れが深く、再使用を強く望む声が寄せられました。一方で、衣類の状態（「きれい」の基準）は個人の主観により差があるため、受け取り時のコミュニケーションにおいて、納得感を得ていただくための課題もあります。

4. 参加者の声と今後の展望

「よく着た服もあれば、一度も着なかった服もある」といった率直な声や、“えこはま”から出たおもちゃが再び戻ってくることへの喜びの声など、現場での対話を通じてリユースの意義を再確認できました。

【市開催日の様子】

1. スムーズな会場運営とルール遵守

当日は「一人で大量に持ち帰らない（特に書籍類）」といったルールの周知・徹底を行った結果、来場者の理解と協力が得られ、例年よりも滞留が少なく、非常にスムーズな動線を確認することができました。

2. 提供品の需要傾向

婦人服の需要: 婦人服（特にL・LLサイズ）の人气が極めて高く、ほとんどの品が次の方へと渡りました。

子ども服の在庫: 今回は子どもの来場者が少なかった影響もあり、乳幼児向け（70・80サイズ）の子ども服が多く残る結果となりました。来場者層に合わせた提供のバランスが今後の課題です。

3. 譲り合いの精神と心温まる光景

「子ども優先」の事前告知が浸透しており、じゃんけん大会などの場面では、大人が小さな子どもに権利を譲る姿が複数回見られました。市民同士の思いやりによる「良い光景」が随所で見られ、リユース市の教育的・交流的な意義を再確認できました。